【都野神社（与板八幡宮）「焼組香奉納額」香名資料】

資料３－3

　※○○○=「名香六十一種」「名香百二十種」などと称されてきた由緒ある名物の香名と、その引歌　　萩須昭大2016『香の本』雄山閣から引用

①立舞袖　　九重に　かさねて匂へ　乙女子が

立まふ袖に　匂ふ花菊（類題集　藤原資季）

　　　　　　　　　　※二百種名香（雑）（恋）、伽羅、上々、苦辛鹹（後水尾天皇勅銘香）

諸人の　立舞ふ袖も　長閑成

　　　　　　　　　　　　　　雲井の春や　千とせをみずらむ　（後水尾天皇）

②春日野　　男山　通ふ契りは　春日野や

聞ば身にしむ　小男鹿の聲（（拾玉集　慈円））

　　　　　　　　　　※百二十種名香（春）、伽羅、上々、辛甘苦（後水尾天皇勅銘香）

③わか草　　遅く疾く**おのがさまざま　咲花を**

**ひとつ二葉の　春の若草（類題集　藤原定家）**

　　　　　　　　　　※（春）伽羅（真南蛮）、下上、甘鹹苦

④みゆき　枝ごとの　末まで匂ふ　花なれば

（御幸）　　　　　　　　　　　　　　散るも御幸と　見ゆるなるらむ（新古今集　藤原師通）

　　　　　　　　　　※百二十種名香（雑）、伽羅、上々、甘鹹苦

⑤玉だれ　　夢覚めて　また吹き明けぬ　玉だれの

ひまもとめても　匂ふ梅が香(順徳院百首　順徳院）

　　　　　　　　　　※（雑）（恋）、伽羅、上々

⑥いにしへ　たちばなの　小鳥に匂ふ　やまぶきは

たがいにしへの　袖の名残ぞ（類題集　光雲）

　　　　　　　　　　　※（雑）、伽羅、上、甘苦鹹酸

⑦松かぜ　　秋来れば　常盤の山の　松風も

移るばかりか　身にぞしみける（新古今和歌　和泉式部）

　　　　　　　　　　※（雑）伽羅、上々、甘鹹苦（後水尾天皇勅銘香）

⑧遠里　　　みれどあかぬ　遠里小野の　萩の花

袖にうつれる　香さへなつかし（類題集　藤原顕季）

　　　　　　　　　　※（雑）伽羅、鹹（後陽成院勅銘香）

⑨かすむ月　　照りもせず　かすめばかすむ　月ゆゑは

曇りもはてじ　人の俤（紫禁和歌　順徳院）

⑩しのぶ　　ももしきや　 古き軒端の 　しのぶにも

なほあまりある　 昔なりけり（続後撰集　順徳院）

　　　　　　　　　※二百種名香（雑）（恋）伽羅、中上、甘酸苦

⑪匂ひの袖

（袖の匂）　梅の花　ありとや袖の　匂ひゆえ

やどにとまるは　鶯のこえ（拾遺愚草　藤原定家）

　　　　　　　　　　※（恋）

散ると見て　あるべきものを　梅の花

うたてにほひの　袖にとまれる（古今集　素性法師）

⑫我宿　　　わが宿の　 藤の色濃き　たそかれに

尋ねやは来ぬ　春の名残を（源氏物語　藤裏葉33）

⑬芦垣　　　葦垣の　外にはみれど　藤の花

　　　　　　　　　　　　　　　　匂ひは我を　へだてざりけり（金葉集　内大臣家越後）

　　　　　　　　　　　※（雑）

⑭男鹿　　思ひあへず　秋ないそぎそ　さ男鹿の

つまどふ山の　小田の初霜　（百番歌合　藤原定家）

⑮明けぼの　 色も香も　しらでは越えじ　梅の花

匂ふ春べの　あけぼのの山（拾遺愚草　藤原定家）

　　　　　　　　　　※中院通村卿（後水尾天皇の側近）銘香　（雑）伽羅、甘酸苦

⑯旅ごろも　旅ごろも　立つ暁の　別れより

しをれしはてや　宮城野の露（續後拾遺和歌　鴨長明）

⑰鶴の齢 かけまくも　かしこきかみの　しるしには

鶴の齢と　なりぬべきかな(枕草子)

⑱御祓川　　禊ぎ川　なつのゆく瀬の　水はやみ

影もとまらぬ　みな月の空（百番歌合　順徳院）

⑲松嵐　　　たぐへくる　松の嵐や　たゆむらん

おのへに帰る　小男鹿のこゑ（新古今集　藤原良経）

⑳浅みどり　あさみどり 春の色ある　梢かな

　　　　　　　　　　　　　　　　待えて匂ふ　花の外まで（拾玉集　慈円）

　　　　　　　　　　※（春）新伽羅、甘酸（遠州銘香）

茂山　　　筑波山　端山茂山　しげけれど

　　　　　　　　　　　　　　　　　思い入るには　さはらざりけり

（新古今集　源重之）

蝉の小河　石川や　瀬見の小川の　さよければ

　　　　　　　　　　　　　　　　　月も流れを　尋ねてぞすむ

（新古今集　鴨長明）

哭梅　　回看骨肉哭一声　梅酸檗苦甘如蜜

　　　　　　　　　　　　　　　　　（白氏文集「正離別」）

呉竹

　　　　　　　※（雑）羅国、鹹。

　　　夢かよふ　道さへたえぬ　呉竹の

伏見の里の　雪の下折れ

（新古今集　藤原有家）

天の戸　　天の戸を 押し明け方の 月見れば

憂き人しもぞ 恋しかりける

　　　　　　　　　　　　　　　　（新古今集　無名）

百華　　百花落如雪　両鬢垂作糸

（百花）　　　　　　　　　　　　（白氏文集　晩春沽酒）